

# 地 理 歴 史

## 『地理総合，地理探究』

### 第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 1 前文

第 1 問から第 6 問における 30 の設問で構成され、学習指導要領の「地理総合」及び「地理探究」の大項目を踏まえた出題であり、第 1 問と第 2 問は「地理総合」との共通問題、第 3 問から第 6 問は「地理探究」の「A 現代世界の系統地理的考察」、「B 現代世界の地誌的考察」、「C 現代世界におけるこれからの日本の国土像」に関わる出題である。

問題作成方針では、学習指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ、地理に関わる事象を多面的・多角的に考察、構想する過程が重視されている。なお、評価に当たっては、報告書（本試験）15ページに記載の 8 項目の観点により、総合的に検討を行った。

#### 2 内容・範囲

第 1 問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第 2 問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第 3 問 世界の自然環境と自然災害に関して、地図や資料から情報を読み取り、地理的事象に関する知識を基に、場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、地震の震源分布、巨石の分布の要因、温帯地域における気候の差異、土地利用の改変による自然環境への影響、自然災害の地域性、地形による大地震の影響の違いについて多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問 1 二つの範囲における震源分布図を読み取り、プレートテクトニクスに関する知識を基に、プレート境界付近における震源の分布と深さの関係について考察する問題。

問 2 巨石が見られる三つの地点周辺の自然環境についての知識を基に、巨石が見られる要因を考察する問題。

問 3 温帯に属する四つの都市における最暖月と最寒月の気温と、最多雨月と最少雨月の降水量を示した図を読み取り、気候因子に関する知識を基に、各都市の気候の特徴を考察する良問。

問 4 熱帯地域における農地開発に伴う土地利用の変化を示した資料を読み取り、人間による土地利用の改変が環境に与える影響を、複数の空間スケールで考察する問題。

問 5 三つの国・地域における地震と熱帯低気圧による被害についての資料を読み取り、それらの国・地域の自然環境や社会環境に関する知識を関連付けて、自然災害の地域性を考察する良問。

問 6 大規模な地震における、震央からの距離と住家倒壊率の関係を示した図を読み取り、小地形ごとの災害リスクについての知識を基に、地震に対する脆弱性について考察する良問。

第 4 問 世界の貿易や産業に関して、多様な資料を読み取り、地理的事象に関する知識を基に、場所や空間的相互依存作用などに着目して、農水産物の自給率、穀物の貿易、貿易による主な国・地域間の結び付き、日本の貿易品の変化、知識集約型産業の動向について、多面的・

多角的に考察する問題によって構成されている。

問1 日本やいくつかの国における農水産物の自給率に関する資料を読み取り、地理的条件に関する知識を基に、各国の農水産業の特徴を考察する良問。

問2 四つの国の大豆とトウモロコシの生産量の変化と輸出率に関する資料を読み取り、それらの穀物の多様な用途に着目し、各国の特徴やその変容について考察する問題。

問3 主な国・地域間の貿易品の輸出額とそれに占める中間財の比率に関する資料を読み取り、各国・地域間の産業構造や経済規模などに着目し、貿易の構造について考察する問題。

問4 経済的用途別に区分された日本の貿易品の輸出入に関する資料を読み取り、日本と諸外国との国際分業体制とその変遷などに着目し、貿易品の変化について考察する問題。

問5 五つの国における国際特許出願数の約30年間の推移と、日本の技術貿易に関する主題図を読み取り、知識集約型産業の地理的特徴について考察する良問。

第5問 村落・都市と人口に関して、様々な図や資料を読み取り、地理的事象に関する知識を基に、場所や空間的相互依存作用などに着目して、村落形態、都市人口率、人口動態、女性の就労状況、日本の都市の類型、高齢化による課題への取組について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 三つの集落の景観写真から村落形態を読み取り、それぞれの集落が形成された歴史的背景を判断する問題。

問2 三つの国の都市人口率の推移を示す図を読み取り、各国の地理的特徴に着目して、都市化における推移の差異とその要因を考察する問題。

問3 各地域の合計特殊出生率と老年人口率を示す表を読み取り、各地域の人口動態について判別する問題。

問4 四つの国の女性の労働力率と女性の第三次産業就業者割合を示す散布図を読み取り、各国の社会環境や産業構造に関する知識を基に、各国の差異を考察する良問。

問5 人口が同規模の三つの都市に関する表を読み取り、各都市の特徴を示した文との対応を考察して、各都市のもつ性格の違いを判断する良問。

問6 都道府県別の老年人口の増加率と老年人口率を示す図を読み取り、大都市圏と地方圏の人口構成の違いに着目して、高齢化に伴う課題やそれに対する取組について考察する問題。

第6問 オセアニアとその周辺地域に関して、多様な資料を読み取り、対象地域に関する知識を基に、空間的相互依存作用や地域などに着目して、大地形と生物の生息域との関連、気候の特徴、食生活の地域性、オーストラリアの貿易相手国の変遷、オーストラリアへの移民について、思考力、判断力を測る問題で構成されている。この地域における様々な地理的事象の共通性や多様性、結び付きを問うている。

問1 オーストラリア大陸周辺における三つの有袋類の生息域や大陸棚を示した地図を読み取り、プレートテクトニクスや氷河性海面変動に関する知識を基に、陸域の変化を考察する良問。

問2 四つの地点における雨温図を読み取り、気候因子に関する知識を基に、各地点を判断する問題。

問3 四つの国について、各国の小麦、米、タロイモ類の年間消費量を示した図を読み取り、食料生産の現状や文化的背景に関する知識を基に、各国の食生活の差異を考察する問題。

問4 オーストラリアの輸出入額の推移を国別に示した図を読み取り、国際情勢の変化やその歴史的背景に関する知識を基に、貿易相手国の変遷を考察する良問。

問5 オーストラリアへの新規流入移民について、五大都市またはその他の地域に流入した割

合を示した表を読み取り，アジア系移民の集住地の傾向と，19世紀の都市形成過程における都市構造を考察する良問。

### 3 分量・程度

第1問（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第2問（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第3問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

問3は，別々の図として示された気温と降水量を統合して読み取り，各都市の位置と関連付けて考察することができたかによって差が表れた。資料や文章量ともに適切である。

第4問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

問2は，アメリカ合衆国やブラジル，アルゼンチンの大豆とトウモロコシの生産や輸出状況に関する個別的な知識が必要となり，やや難易度が高い。問3は，各国・地域の経済規模や国際分業の構造が理解できているかによって差が表れた。資料や文章量ともに適切である。

第5問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

問2は，都市人口率を産業構造や経済水準だけでなく，自然環境とも結び付けて多面的に考察することができたかによって差が表れた。資料や文章量ともに適切である。

第6問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

問5は，統計数値の有意な差が読み取りにくく，都心周辺，郊外の言葉の定義が明確ではなかったこともあり，難易度が高かった。資料や文章量ともに適切である。

### 4 表現・形式

第1問（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第2問（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第3問 多様な資料が用いられており，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する出題形式で適切である。問6では，住家倒壊率を示す縦軸の目盛りは，受験者にとって見慣れない表現方法であるため，受験者が困惑することのないような配慮が必要である。

第4問 多様な資料が用いられており，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する出題形式で適切である。問2は，指数と割合が縦軸と横軸に取られ，図の意味の理解に時間を要したと考えられる。問4は，直接消費財や耐久消費財といった資料中で定義されている言葉の具体例をイメージしにくく，解答する上での着眼点を捉えにくかった。

第5問 多様な資料が用いられており，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する出題形式で適切である。問6は，「持続可能な国土像の探究」について，地方圏の過疎問題を取り上げた出題となっているが，過疎問題という題材の選択や，解決に向けた具体的取組の適否を判断するという出題形式が過去の出題と類似している印象を受ける。より多様な切り口での課題設定や，魅力的な資料を用いた問い方の工夫を求めたい。

第6問 多様な資料が用いられており，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する出題形式で適切である。地域区分した地域に見られる共通性や多様性，結び付きなどに焦点を当てた地誌分野の大問にふさわしい設問が多い。

## 5 まとめ（総括的な評価）

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って、学習指導要領において育成することを旨とする資質・能力を測るための良問で構成されている。特に、高等学校教育で身に付けた、大学教育の基礎力となる知識及び技能や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くための文章や統計資料、主題図といった様々な資料の読解力が試される試験となっている。

第2問で場面設定がなされ、地域調査を実施する場合に着目すべき地理的事象とその分析視点等、地域調査の進め方が各設問に意識された構成となっている。問1から問4まで、設定されたテーマに基づいて探究的に学習が展開され、学校現場における授業展開の参考になる部分が多い。第4問でも同様に学習場面の設定がなされているが、本試験の第4問に比べると、各設問間のつながりが見えにくく、それぞれ独立した設問が並んでいる印象で、学校現場における探究的な学習場面としてのメッセージはやや弱い部分がある。

第3問は、全体として、簡潔にまとめられた資料を読み取り、自然環境に関する基礎的・基本的な理解の学習成果を問う良問が多く見られる。第6問は、問4をはじめ、オセアニアとその周辺地域という地域区分にふさわしい問題が多い。

第3問や第5問では、「地理探究」C(1)「持続可能な国土像の探究」に言及した出題が一部で見られ、地理探究らしい出題である。C(1)は、「地理総合」及び「地理探究」で学習した内容や、獲得した概念を活用して取り組む、地理学習の集大成として位置付けられる重要な学習のまとめである。高等学校における授業の在り方への提起として、今後も様々な出題形式の在り方を期待したい。

昨年度の大問構成を踏まえつつ、新課程2年目における『地理総合、地理探究』の試験として、各大問での出題分野が固定的とならないよう、工夫された大問の構成である。今後も、本試験及び追・再試験の大問構成やそこで扱われる分野が固定的とならないよう、多様な大問構成の在り方を模索されることを期待したい。

全体的には適正な難易度であり、受験者にとって初見となる資料が付された問題も見られたが、与えられた資料から情報を読み取り、解答することが可能である。引き続き、高等学校教育の学習実態に即した程度や表現・形式に留意して問題の対象地域を精選したり、注釈を加えたりといった出題の工夫をお願いしたい。

全体を通して、高等学校での学習内容を基にした思考力を問う問題や探究的な学習過程を再現する問題が随所に見られ、高等学校における授業改善の指針となる試験である。